

# 人生、時どき雲のち晴れ

【第6回】

## 我らレインボウ族

古代フラダンサー  
水野みさを

(10) 名前のない新聞 No.210 / 2019年3・4月号

ようか？」と自作の詩集を片手に詩の朗読の流しをする光景が、サンフランシスコのノースビーチのカフェや、パークレイのカフェ・メディタレニアン界限などで見られた。

ビートニク詩人たちは時代が変容しても、様々な姿で天命を全うしようとしていた。ロバート・ハンターは、グレイトフル・デッドの歌詞を書くようになり、

ジェリー・ガルシアはいったん絵筆を握ったもののギターに決め、音楽界の商業路線に乗らない独自のやり方を貫いた。トム・ロビンズは芭蕉の「奥の細道」を英訳し、その訳本を頂いたことがあるが、「月日は百代の過客にして」という冒頭部分を the Sun and the Moon are eternal travelers (太陽と月は永遠の旅人である) と粹に訳していて、私は初めて日本古典「奥の細道」冒頭の意味を深く理解できた。

### きみもレインボウになれる！

そして、忘れてならないのが、1969 ウッドストックの司会を務めたビートニク詩人ウェイビー・グレイビーだ。ウェイビーは若き頃、NY グリニッジヴィレッジをたむろするまだ無名のポップ・ディランとも親交あり、後にディランの学友ジャハナラと結婚した。1968 民主党議会でシカゴ・セブンが起した暴動にも参加して警官から大怪我を負い、後にタイダイのピエロ姿で社会風刺を始め、サマー・オブ・ラブの最たるウッドストックでは司会を務めた。コンサートビデオにはまだ瘦身のウェイビーが映っている。機会があったら、観てね。ウェイビーと妻ジャハナラは、ネパールやガテマラの高山地特有の目の病気の人たちの為に医療費チャリティの SevaT シャツを売り、北カルフォルニアに作ったコミュニティ Hog Farm では毎年秋、ソーラーエネルギーによるコンサートを開催。そう、オフ・グリッド・コンサートの先駆者で、ネイティブインディアンの人権を支持する A.I.M 運動家でもある。

そんなウェイビーを初めて目撃したのはパークレイに来たばかりの頃、初グレイトフルデッド・コンサートでだった。人づてに楽屋に入ることができた。楽屋は二重構造になっており、奥がデッドメンバーだけの楽屋で



↑ 1975 ピースウォークで見たレインボウ。撮影：水野みさを

立入禁止。その手前のスタッフ用の広いバックステージには飲み物や食べ物があり、そこで私は目撃した！タイダイのピエロ姿の、かなり太目となっているウェイビーがシャボン玉を吹いているのを。日本から来たの私には、その楽屋光景はあまりにカラフル過ぎた。しかしその約10年後、私がウェイビー主催の森のサマー・キッズ・キャンプでフラのお仕事をする事になるとは！

私の肩書きは古代フラダンサーだが、アフリカがルーツのアフロヘイシャングダンスもずっと続けてきた。アフリカン・ヒストリー・マンス (黒人の歴史を讀める月) の2月



には、その両方をパフォーマンスさせて頂いたのは人種問わずサンフランシスコならではだろう。ハワイ島から帰ったばかりの私にレイニーカレッジでフラを教える講師の仕事を紹介してくれたのはアフロヘイシャングダンスの先生で、ウェイビーの森のキャンプでフラを教える仕事を紹介してくれたのもアフロヘイシャング仲間だった。森の

キャンプでは自分の部屋としてテントが渡され、毎朝食後、ウェイビーが本の読み聞かせをしてくれた。「子供は未来の種」だからと子供たちにあらゆる表現の芽を与えるもう半世紀は続く森のキャンプ。演劇、詩、音楽、ダンス、綱渡り、一輪車、アート他。そして2週間セッションのラストには、子供たちは習ったものをレインボウの絵がついた森のステージで披露する。その時、ウェイビーは腕をぐるぐる回しながら大声で叫ぶのだ。You Can Be a Rainbow! (君もレインボウになれるううう!!!) と。私が311以後、いのちファーストを想い「いのち」と手描きしたシャツを着て踊るようになったのは、もしかしたらこの森のキャンプで影響受けてたからかなあとも思う今日この頃。あいとへいわ

↑ Wavy Gravy パークレイにて1980年代後半。撮影：水野みさを



↑ 60年代ヒッチハイクで一緒にサンフランシスコにやって来たジャニス・ジョブリンをプロモートしたチャット・ヘルムスト。サイケデリックアートのスタンリー・マウス展で。90年代半ば。撮影スタンリー・マウス